

ります。との回答で、利用できないという噂を否定されていました。

相談支援の重要性、先々を見据え、ライフステージに応じた一貫した支援を行ってもらえる、任せられる相談支援事業所、頼れる相談員を見出すことが大切で、セルフプランではなく相談支援事業所の活用を訴えかけてました。

相談支援体制を整えるだけでなく、個々の相談支援事業所が、相談員の高いスキルに基づいた、より質の高いサービスの提供と関係機関との密な連携を目指し、任してもらえる相談支援事業所、頼られる相談員になるべく、日々、努力していく必要があると感じました。

今回の分科会では、普段から携わっている事柄だけに、うなずける話も多くありましたが、耳の痛い話も多くあり、改めて考えさせられた実り多い大会になりました。

第4分科会

【老いる(高齢化)】に参加して
福島育成園 副主任 大塚 隆介

第4分科会は『高齢化』をテーマとした分科会ということで非常に関心が高く、とても大きな会場で約500名の方が参加されていました。

前半は全国手をつなぐ育成会連合会の統括である田中正博氏の基調講演が行われました。「どうする?高齢化」～総合支援法時代に育成会に求められる姿～との内容で、現在の課題など詳しく話をいただきました。

まず迫りくる「家族同居の高齢化」をどのように受け止めるのか?との内容で、知的障がい者を含む世帯が地域で生活していくリスクなど挙げられました。ご本人の高齢化とともに同居している家族が高齢になられることで、地域で生活する知的障がい児者を含む家庭が「孤立死」に至るケースなども挙げられています。

65歳を超える知的障がい者は5万人を超えると推測され、高齢になることによって内科的な病気・身体機能の低下・認知機能の低下が目立ってきます。家族の高齢化とご本人の高齢化によって、それまで行ってきた生活が困難になります。そこで重要になってくるのが「サービス等利用計画」で、ご本人の「したいこと」を中心にした地域生活支援のための総合的な計画(ライフプラン)として必要性が高いということです。

高齢化に備えて必要なのは変化する暮らしぶり

と一緒に考えてくれる支援。インフォーマルな支援も含めたサービス「等」利用計画を作る・ご本人や家族の現状課題や将来展望に応えた福祉サービス以外の支援も含めた「サービス等利用計画」を作ることなど、「サービス等利用計画」の重要性について深く学ぶ機会となりました。

後半は実際に地域で高齢化に向けた取り組みをされている方のお話を聞くことが出来ました。実践されている話を色々と聞かせていただくことが出来てすごく刺激をいただき、高齢化によってそれまでと違う支援が必要となってくることを改めて感じました。

家族が変化することはもちろん、認知機能・身体的機能の低下、疾病などの重篤化であったり、設備の不備や医療・介護などの専門性が必要となったり、個別な対応が増加することになったり、転倒や誤嚥などによる事故の増加、急病や急変などのリスクも高まっていくことなど、これから様々な課題があるのだと気がきました。

支援のポイントも、働くことや社会的スキルを上げることよりも小さな成功体験を重ねられるような活動にシフトすることや、機能・体力低下に合わせることで、それまでの生活環境やご本人の基盤を知っておくことなどが必要となることを学びました。

看取りの支援をされている方の話では、チームで支援することの重要性や家族・医療・支援者の連携が必須であることなど、幅広い支援の連携が必要であることなどを感じました。

現在勤務する福島育成園でも施設入所支援を利用されている方の高齢化を感じる場面も多くあります。今回の全国大会の分科会で勉強させていただいたことを、これからの支援に役立てていきたいと強く感じました。

